

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月15日

上場会社名 株式会社エコノス 上場取引所 札
 コード番号 3136 URL <http://www.eco-nos.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 勝也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 新行内 宏之 (TEL) 011-875-1996
 四半期報告書提出予定日 2021年2月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の業績 (2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,818	-	43	-	7	-	39	-
2020年3月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	32.84	32.06
2020年3月期第3四半期	-	-

(注) 当社は、2020年3月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2021年3月期第1四半期において連結子会社を有しないこととなったため、2021年3月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2020年3月期第3四半期の経営成績及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,911	359	12.3
2020年3月期	2,466	109	4.4

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 358百万円 2020年3月期 107百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年3月期	-	0.00	-	-	-
2021年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現時点において合理的に算定することが困難であると判断し、未定としております。今後の動向を見極めながら、業績予想の合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年3月期3Q	1,283,898株	2020年3月期	904,498株
------------	------------	----------	----------

② 期末自己株式数

2021年3月期3Q	289株	2020年3月期	289株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年3月期3Q	1,198,198株	2020年3月期3Q	878,959株
------------	------------	------------	----------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事項)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中で、4月7日に政府より特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、外出自粛や事業者の休業が拡大するなど、経済活動が著しく制限される厳しい状況となりましたが、5月25日に同宣言が解除されたため回復の兆しがみられました。ただし、現状では新型コロナウイルス感染症ははまだ猛威を振るい、景気の先行きについて不透明な状況が続いております。また、北海道経済に関しても、新型コロナウイルス感染症の拡大に対し、10月28日から始まった北海道集中対策期間が延長され、不透明な経済情勢が続いております。

このような経営環境の中、当社におきましては、財務基盤の強化、インターネット販売の強化等による巣ごもり需要の取り込み及び経費コントロールの強化に取り組んでまいりました。

特に財務基盤の強化につきましては、第1四半期会計期間において株式会社北の達人コーポレーション（東証一部、証券コード2930）の代表取締役社長を務める木下勝寿氏による新株予約権の行使に伴う208,131千円の増資、取引銀行3行からの合計300,000千円の借り入れ及び株式会社エスプール（東証一部、証券コード2471）に対して当社子会社でありましたブルードットグリーン株式会社の株式70%を譲渡したことによる特別利益34,383千円等により、今後も不安定な経営環境が継続した場合においても十分に対応可能な財政状態となりました。

また、当第3四半期会計期間においてiPhone修理のサービスを提供するiCracked Store 2店舗の撤退を決定したことから、特別損失15,808千円を計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高は2,818,521千円と前年同四半期に比べ63,082千円（2.3%）の増収、営業利益は43,575千円と前年同四半期に比べ114,998千円の増益（前年同四半期は営業損失71,422千円）、経常利益は7,779千円と前年同四半期に比べ117,065千円の増益（前年同四半期は経常損失109,286千円）、四半期純利益は39,353千円と前年同四半期に比べ181,414千円の増益（前年同四半期は四半期純損失142,061千円）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、当社は前事業年度におきまして「リユース事業」、「低炭素事業」及び「その他」をセグメント情報として開示しておりましたが、2020年6月5日に低炭素事業を営む当社子会社でありましたブルードットグリーン株式会社の株式70%を、株式会社エスプール（東証一部、証券コード2471）に譲渡したことに伴い、第1四半期より「リユース事業」及び「その他」をセグメント情報として開示しております。

（リユース事業）

リユース事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月、5月の営業時間の短縮措置、とりわけゴールデンウィーク中の5日間の全店休業措置もあり、4月、5月の2ヶ月間における既存店売上高は前年同期比で90%を割り込みました。

一方で、消費者の外出自粛に伴う巣ごもり需要の拡大に対してインターネット販売の強化を行ったこと、政府による定額給付金事業の実施により消費需要が喚起されたこと、政府の緊急事態宣言が5月25日に解除されたことにより個人消費が急速に改善したこと及び消費者が新型コロナウイルスに感染する可能性の高い都市中心部などの人口密集地域を避ける消費行動をした傾向がみられ、当社が店舗を展開する郊外型施設の来客数が増加したこと等により、6月単月の既存店売上高は前年同月比110%超と急速に好転し、7月から12月においても既存店売上高は各月で前年同月比100%超を維持いたしました。

また、各店舗の経費コントロールを強化し、人件費の適正化や出張旅費、消耗品費等の販売費及び一般管理費の削減に全社的に取り組んだことにより、前事業年度の新規出店5店舗（純増4店舗）により店舗が増加しているにもかかわらず、リユース事業の当第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費が前年同期に比べ68,472千円減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高は2,782,588千円と前年同四半期に比べ61,329千円（2.3%）の増収、セグメント利益は247,126千円と前年同四半期に比べ114,605千円（86.5%）の増益

となりました。

当第3四半期会計期間末現在におけるリユース事業の各業態別の店舗数は以下のとおりであります。

(単位：店)

	ブックオフ 事業部	ハードオフ事業部				ハードオフ 事業部計	合計
		ハードオフ	オフハウス	ホビーオフ	ガレージ オフ		
店舗数	17	15	17	16	1	49	66

(注) ブックオフ事業部の店舗数にはインターネット販売の1店舗を含みます。

(その他)

本セグメントは報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業とiCracked Storeの運営を通じてiPhoneの修理等のサービスを行うリペア事業を含んでおります。なお、当第3四半期会計期間においてiCracked Storeにつきましては1店舗の閉店と1店舗の移管を決定いたしました。これにより当社の運営するiCracked Storeの店舗数は1店舗となります。本セグメントの当第3四半期累計期間の業績は売上高35,933千円と前年同四半期に比べ1,753千円(5.1%)の増収、セグメント損失は22,244千円と前年同四半期に比べ9,850千円の減益(前年同期はセグメント損失12,393千円)となりました。

新型コロナウイルス感染症は現在も予断を許さない状況ではありますが、引き続き、店舗の清掃及び消毒の徹底、レジカウンター前にビニールシートを設置することによる飛沫感染リスクの低減、ソーシャルディスタンスを確保するための接客体制の構築に加え、出勤時の検温実施等により従業員の健康管理にも注意することで、お客様に安心して足を運んでいただけるよう店舗運営に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、1,744,982千円となり、前事業年度末と比べて504,840千円の増加となりました。これは、主に現金及び預金の増加534,690千円によるものです。

また、当第3四半期会計期間末における固定資産は、1,166,475千円となり、前事業年度末と比べて59,451千円の減少となりました。これは、主に有形固定資産の減少56,493千円によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は、1,061,950千円となり、前事業年度末と比べて114,210千円の増加となりました。これは、主に1年内償還予定の社債の増加41,300千円、未払消費税等の増加37,133千円によるものです。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債は、1,490,497千円となり、前事業年度末と比べて81,199千円の増加となりました。これは、主に長期借入金の増加173,411千円、社債の減少50,000千円、リース債務の減少25,094千円及び繰延税金負債の減少16,124千円によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、359,011千円となり、前事業年度末と比べて249,979千円の増加となりました。これは、主に新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金の増加211,180千円及び四半期純利益39,353千円の計上によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、2020年5月18日付の「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしましたとおり、合理的に算定することが困難であると判断し、未定としております。

今後の動向を見極めながら、業績予想の合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	251,861	786,552
受取手形及び売掛金	94,889	109,794
商品	758,220	796,759
未収還付法人税等	3,236	-
前払費用	49,308	50,531
その他	82,625	1,344
流動資産合計	1,240,142	1,744,982
固定資産		
有形固定資産	827,508	771,014
無形固定資産	4,354	1,380
投資その他の資産	394,064	394,080
固定資産合計	1,225,927	1,166,475
資産合計	2,466,069	2,911,458
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,083	14,382
短期借入金	450,000	450,000
1年内償還予定の社債	8,700	50,000
1年内返済予定の長期借入金	293,361	297,891
未払金	53,182	62,694
リース債務	36,466	38,877
未払費用	65,452	68,765
未払法人税等	11,449	6,280
未払消費税等	13,421	50,554
ポイント引当金	3,991	3,966
店舗閉鎖損失引当金	-	2,520
その他	5,629	16,016
流動負債合計	947,739	1,061,950
固定負債		
社債	50,000	-
長期借入金	578,953	752,364
リース債務	554,569	529,475
長期未払金	46,086	41,306
退職給付引当金	54,061	57,033
資産除去債務	106,062	106,877
繰延税金負債	18,076	1,951
その他	1,489	1,489
固定負債合計	1,409,298	1,490,497
負債合計	2,357,037	2,552,447

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	220,989	326,579
資本剰余金	169,316	274,906
利益剰余金	△284,307	△244,954
自己株式	△164	△164
株主資本合計	105,834	356,367
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,875	2,211
評価・換算差額等合計	1,875	2,211
新株予約権	1,322	432
純資産合計	109,031	359,011
負債純資産合計	2,466,069	2,911,458

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	2,818,521
売上原価	907,810
売上総利益	1,910,711
販売費及び一般管理費	1,867,135
営業利益	43,575
営業外収益	
受取配当金	854
受取手数料	6,449
協賛金収入	376
その他	7,463
営業外収益合計	15,143
営業外費用	
支払利息	50,197
その他	742
営業外費用合計	50,939
経常利益	7,779
特別利益	
関係会社株式売却益	34,383
特別利益合計	34,383
特別損失	
減損損失	13,288
店舗閉鎖損失引当金繰入額	2,520
特別損失合計	15,808
税引前四半期純利益	26,354
法人税、住民税及び事業税	3,256
法人税等調整額	△16,255
法人税等合計	△12,999
四半期純利益	39,353

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ105,590千円増加しております。この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が326,579千円、資本剰余金が274,906千円となっております。

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社は、従来、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物以外の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、定率法を採用していましたが、第1四半期会計期間より、定額法に変更しております。

これは、当社の今後の有形固定資産の使用につき、使用実態を改めて検討したところ、耐用年数の期間内において長期安定的に稼働し収益に安定的に貢献していくことが見込まれることから、有形固定資産の減価償却方法として定額法を採用することが費用配分の観点から合理的であり、経済的実態をより適切に反映できると判断いたしました。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当社店舗は行政の要請に対応して営業時間の短縮などの措置を取っており、当社の売上高、売上総利益をはじめとする財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があることを認識しております。そのため、当第3四半期会計期間末以降財務諸表作成時までに入手可能であった1月以降の店舗売上等の実績を考慮し、この新型コロナウイルス感染症の影響が2021年3月期まで続くものと仮定し当事業年度の固定資産の減損会計の見積り及び繰延税金資産の回収可能性の見積りに反映させております。

なお、前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症による当社事業への影響に関する仮定について重要な変更はありません。

新型コロナウイルス感染症の影響が今後さらに長期化した場合や深刻化した場合には有形固定資産の減損損失が発生する可能性があります。しかしながら、提出日現在では当該影響額を合理的に算定することは困難であると認識しております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	リユース 事業	低炭素 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,721,259	98,802	2,820,061	34,179	2,854,241	-	2,854,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,721,259	98,802	2,820,061	34,179	2,854,241	-	2,854,241
セグメント利益 又は損失(△)	132,520	△41,239	91,280	△12,393	78,887	△191,549	△112,662

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及びリペア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△191,549千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	リユース 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,782,588	2,782,588	35,933	2,818,521	-	2,818,521
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,782,588	2,782,588	35,933	2,818,521	-	2,818,521
セグメント利益 又は損失(△)	247,126	247,126	△22,244	224,882	△181,306	43,575

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及びリペア事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△181,306千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」に含まれるリペア事業において、店舗の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては13,288千円であります。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前事業年度まで、「低炭素事業」を報告セグメントとしてセグメント情報を開示しておりましたが、低炭素事業を営んでいました当社子会社でありましたブルドットグリーン株式会社の株式の70%を譲渡したことに伴い第1四半期会計期間より報告セグメントの区分を見直し「リユース事業」のみのセグメントになっております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。